

漢方方剤TJ-138の腽外分泌に対する影響の検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田口, 進, 新井, 一郎, 小松, 靖弘, 山浦, 常 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/11387

2. ビデオ視聴「難病に挑戦する超能力—^{シヨウキン}邵錦—」

(平成5年12月19日(日) 日本テレビで放映のビデオを30分にまとめたもの)

3. ビデオの症例についての検討

アトピー性皮膚炎・慢性関節リウマチ・その他

司会 (国際環境・熱帯医学) 白坂龍曠

4. 上記症例についての質疑応答

(邵錦難病研究所 所長) 邵 錦先生

5. 「気の医学」の中での気功の位置付け

(神経精神科) 田中朱美

幹事 白坂龍曠・菊池長徳・田中朱美

第31回東京女子医大 漢方医学研究会

日 時 平成6年6月22日(水) 午後5時30分～7時

場 所 臨床講堂2

演題

司会 佐藤 弘

1. TJ-8007 (ツムラ統命湯) の薬理学的研究

(¹東女医大附属東洋医学研究所, ²株式会社ツムラ) 後藤和宏¹・杉本 晃²・

平野泰雅²・山浦 常¹・白坂龍曠¹・石毛 敦²

2. 漢方方剤 TJ-138 (ツムラ桔梗湯) の腺外分泌に対する影響の検討

(¹昭和医大医学部第二内科, ²ツムラ中央研究所, ³東女医大附属東洋医学研究所) 田口 進¹・

新井一郎²・小松靖弘^{2,3}・山浦 常³

3. 柴苓湯に変方後、自覚症状の悪化を見た潰瘍性大腸炎の2例

(東女医大附属東洋医学研究所) 小森田俊幸・川越宏文・

新井 信・中野頼子・佐藤 弘・代田文彦

4. 鼻炎の治療例

(東女医大附属東洋医学研究所) 川越宏文・新井 信・中野頼子・佐藤 弘・代田文彦

特別講演

司会 代田文彦

漢方薬の現代薬理学的解明

(昭和薬科大学病態科学 教授) 田代眞一

当番世話人 代田文彦

漢方方剤 TJ-138の腺外分泌に対する影響の検討

¹昭和医大医学部第二内科, ²ツムラ中央研究所, ³東女医大附属東洋医学研究所)

田口 進¹・新井一郎²・

小松靖弘²・山浦 常³

〔目的〕今まで漢方方剤の腺外分泌に対する検討は行われていない。今回ラットを用いて TJ-138の腺外分泌に対する影響とその作用機序の解明を目的とした。

〔方法〕体重280～320gのウイスター系雄性ラットを吸入麻酔下で開腹し、胆管、膵管、十二指腸、胃にカニューレを挿入固定後、背部尾側より体外へ誘導し閉腹した。また頸静脈にもカニューレを挿入、術後3日間の回復を待ち12時間絶食後、次の3群に分けて実験を行った。① TJ-138(桔梗湯：1g/kg/1.5ml 蒸留水に

溶解)を胃内投与し、コントロールは蒸留水のみを投与、② CCK 受容体拮抗剤 (Loxiglumide：50mg/kg/1ml) を TJ-138投与前30分に胃内投与、③アトロピン (300μg/kg/ml) を TJ-138投与60分前から持続点滴投与。各群の唾液は薬剤投与前1時間と投与後3時間まで各々30分毎に採取し、液量、蛋白量を測定した。

〔結果〕唾液量、蛋白分泌量は TJ-138投与後30分をピークに各々基礎値の1.6倍、2.6倍に上昇し、この時血中 CCK は有意に上昇した (18.08±1.2 vs 22.48±1.49pg/ml)。Loxiglumide 併用で蛋白分泌は有意に抑制された。アトロピン併用では唾液、蛋白分泌の抑制は得られなかった。

〔結論〕 TJ-138の腺外分泌刺激作用が認められ CCK を中心に消化管ホルモンを介した作用機序が考えられ

た。

第32回東京女子医大 漢方医学研究会

日 時 平成 6 年 11 月 30 日 (水) 午後 5 時 30 分～7 時

場 所 臨床講堂 2

演題

司会 代田文彦

1. 慢性膵炎モデル WBN/Kob ラットに対する TJ-138 (ツムラ桔梗湯),
TJ-109 (ツムラ小柴胡湯加桔梗石膏) の作用

(¹)株式会社ツムラ中央研究所, ²)昭和大学医学部第二内科,

³)東女医大附属東洋医学研究所) 新井一郎¹⁾・間瀬明人¹⁾・

長谷川雅之¹⁾・木谷敏之¹⁾・田口 進²⁾・

山浦 常³⁾・小松靖弘¹⁾³⁾・白坂龍曠³⁾

2. 漢方薬を服用して「人生が楽しくなった」2 症例

(東女医大附属東洋医学研究所) 中野頼子・小森田俊幸・

川越宏文・新井 信・佐藤 弘・代田文彦

3. 気道粘液線毛輸送系におよぼす漢方方剤の効果

(第一内科) 千代谷厚・玉置 淳・多賀谷悦子・兼村俊範・金野公郎

特別講演

司会 金野公郎

呼吸器疾患と漢方治療

(東女医大附属東洋医学研究所 客員教授) 松田邦夫

当番世話人 金野公郎

1. 慢性膵炎モデル WBN/Kob ラットにおける TJ-138 (桔梗湯), TJ-109 (小柴胡湯加桔梗石膏) の作 用

(¹)株式会社ツムラ中央研究所, ²)昭和大学医学
部第二内科, ³)東女医大附属東洋医学研究所)

新井一郎¹⁾・間瀬明人¹⁾・長谷川雅之¹⁾・

木谷敏之¹⁾・田口 進²⁾・山浦 常³⁾・

小松靖弘¹⁾³⁾・白坂龍曠³⁾

TJ-138 (桔梗湯) は膵外分泌刺激作用を有する。そ
こでこの TJ-138 および桔梗含有漢方方剤である TJ-
109 の遺伝性慢性膵炎モデル WBN-Kob ラットに対す
る作用を検討した。

〔実験方法〕5 週齢の雄性 WBN/Kob ラットに TJ-
138, TJ-109 を各々 0.4%, 1.25% MB-3 (船橋農場:
特殊繁殖用飼料) に混ぜて投与した。薬物投与 2, 4,
6 カ月 (13, 21, 29 週齢) の時点で血液, 尿検査, PFD
テスト, 膵臓の hydroxyproline 含量の測定, 膵組織の
HE 染色, Azan 染色での評価をおこなった。

〔結果〕WBN/Kob ラットは Wistar ラットに比較
して 13 週齢の時点から膵の萎縮, 膵組織の繊維化, 膵

臓中の hydroxyproline 含量の増大がみられ, それは
29 週齢まで持続した。しかし, PFD テストの結果から
は, 29 週齢になってはじめて膵臓の外分泌能の低下が
認められた。また, 糖尿病症状 (尿糖, 血糖, 血中フ
ルクトサミン濃度の上昇) も 29 週齢ではじめて観察さ
れた。したがって, WBN/Kob ラットは膵の繊維化の
結果として, 膵外分泌障害, 糖尿病をおこすものと考え
られた。これらの症状に対して TJ-138, TJ-109 は今
回用いた実験条件の範囲では明らかな作用は認められ
なかった。

2. 漢方薬を服用して「人生が楽しくなった」2 症例

(東女医大附属東洋医学研究所) 中野頼子

漢方は心身一如の医学と言われており, 心と体を切
り放さずに考える。漢方治療により心身共に調子良く,
人生が楽しくなった 2 症例を報告する。

〔症例 1〕64 歳, 女性, 主訴は肩こりであるが, 副甲
状腺機能亢進症で経過観察中で病気に対する不安感が
非常に強く, 神経質で心配性である。胃が痛くなるこ
とが多いことと不安が強いことより半夏瀉心湯合半夏
厚朴湯 (煎じ薬) を処方し, 肩こりも胃の調子も良く